

ブドウのコナカイガラムシ類防除は 樹幹塗布が効果的！

ブドウのコナカイガラムシ類の防除法として、ジノテフラン剤の樹幹塗布処理を発芽3週間前から発芽当日に行うと、薬剤成分の葉への十分な移行を認めました。

連年施用する場合は、前年処理した部位の上位部（枝側）に塗布する方が効果的であることも確認しました。

<背景>

近年、ブドウのコナカイガラムシ類防除に農薬登録された樹幹塗布処理は、現地でも導入され効果を認めています。処理時期や連年施用した場合の効果などが不明でしたので、処理時期の違い及び連年施用した場合の薬剤成分の移行実態について調査を行いました。

※樹幹塗布処理：枝分かれするまでの幹に、薬剤を刷毛等で塗りつける防除方法。

<方法>

1 処理時期

発芽3週間前及び発芽当日

2 処理方法

ジノテフラン顆粒水溶剤液（40g/40ml/樹に調整）をブドウの主幹部の粗皮を剥いだ後に塗布しました。

3 連年施用試験

ジノテフラン顆粒水溶剤液（20g/20ml/樹に調整）を前年と同じ部位と前年より上部位（枝側）に塗布しました。対照として初年目処理を設けました。

表1 ジノテフラン顆粒水溶剤処理日の違いによるブドウ葉中の濃度(2011年)

試料採取日	発芽3週間前処理(1/6)		発芽当日処理(1/27)	
	処理後日数	濃度(ppm)	処理後日数	濃度(ppm)
3月7日	60	9.3	39	7.3
3月25日	78	5.8	57	4.9
4月4日	88	3.6	67	3.5

注)ジノテフラン顆粒水溶剤40g/40ml処理、ブドウ品種「デラウエア」

<結果>

1 両処理時期とも発芽67日後の葉のジノテフラン濃度は、フジコナカイガラムシ2齢幼虫の50%致死濃度（1.58ppm：森下2006）よりも高いことを確認しました（表1）。

2 効果的な塗布部位

同一部位に連年施用処理した場合は、処理71日後に3.3ppmと成分量が防除に十分な高い濃度にはなるものの、異部位処理や初年目処理よりも濃度が低くなる傾向を認めました（図2）。

※異部位処理：前年塗布した場所以外の部位に処理するもの。

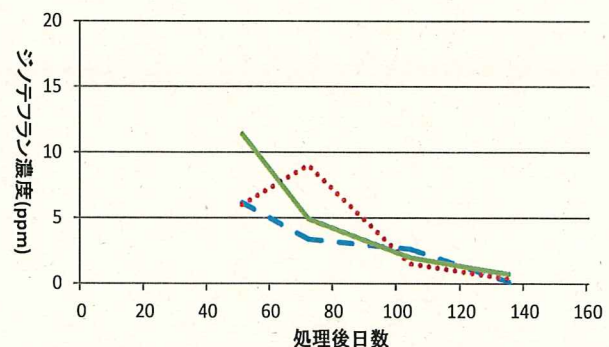


図2 ブドウにおける樹幹塗布連年処理による塗布部位が葉中のジノテフラン濃度に及ぼす影響(品種「デラウエア」, 2012年1月11日処理)

— 同一部位処理樹 異部位処理樹 — 初年目処理樹

問い合わせ先：資源環境研究部病虫科(担当：澤村信生、奈良井祐隆) TEL 0853-22-6772

E_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp